

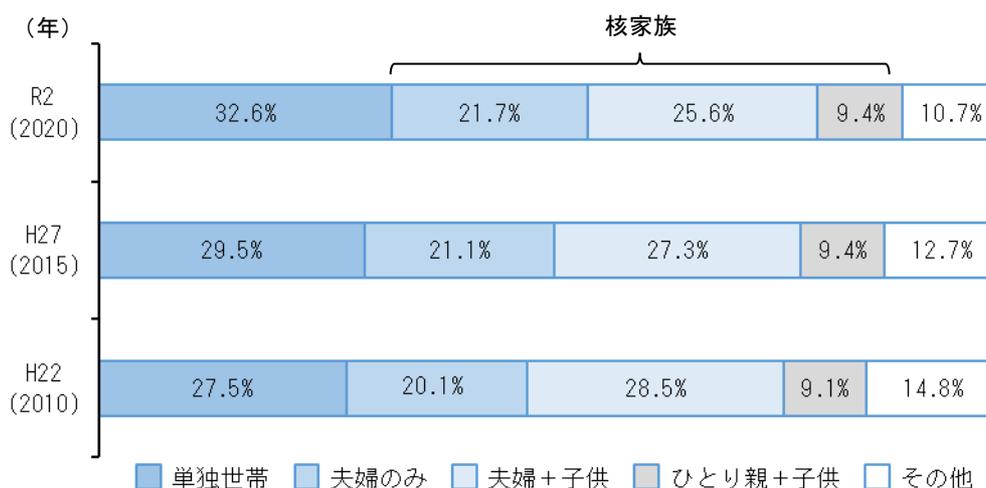
第2章 食をめぐる本県の現状と課題

1 食を取り巻く状況

(1) 社会状況の変化

山梨県の一般世帯数を世帯の家族類型別にみると、「単独世帯」（世帯人員が1人）が増加し、一般世帯に占める「単独世帯」、「核家族」の割合は、全体の約9割を占めています。

図1 一般世帯の家族類型別割合の推移（山梨県）

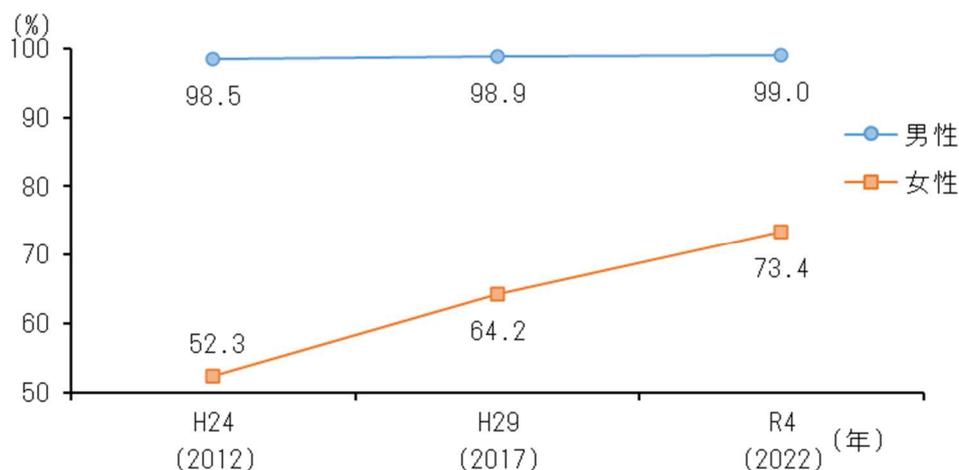


出典：国勢調査（総務省）

子供への食育は、日々の暮らしの中心の場である家庭が大きな役割を担っています。

近年、育児をしている女性就業者が増え、食事の準備に時間や手間をかけられない場合も多く、家庭だけでその役割を十分に果たすことが難しくなっています。

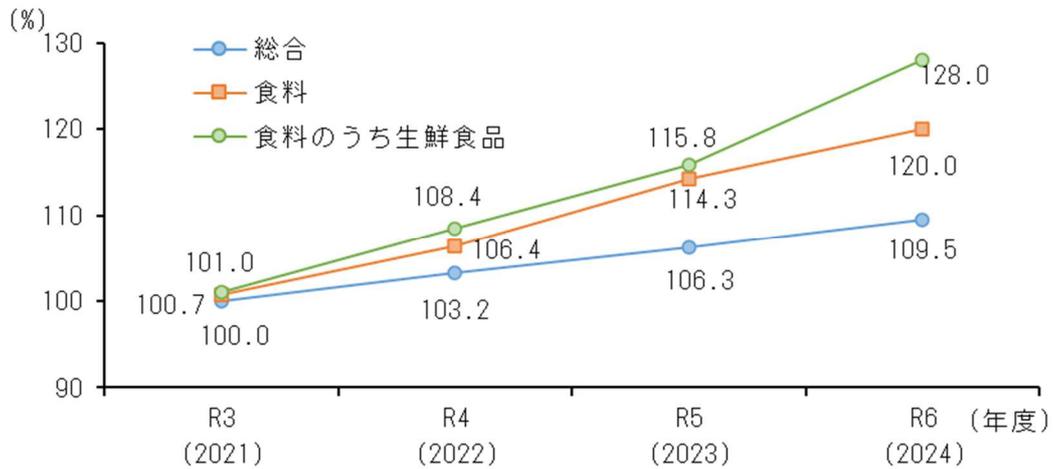
図2 育児をしている者の就業者割合の推移(全国)



出典：就業構造基本調査（総務省）

生活に関わる様々な物価が高騰しており、令和2年（2020年）を100とした消費者物価指数は年々上昇しています。中でも、県民の暮らしに深く関わる「食料」の上昇幅が大きくなっています。

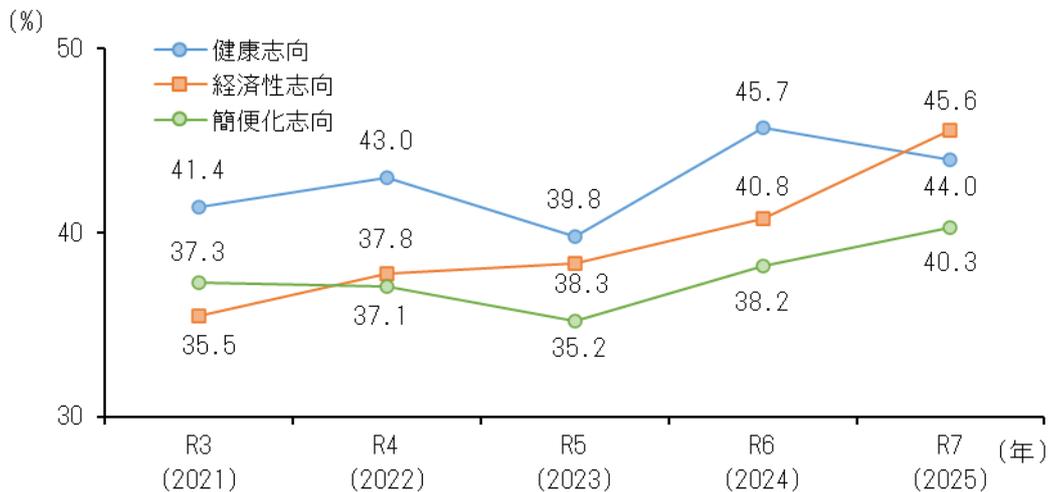
図3 消費者物価指数の推移（全国）



出典：2020年基準消費者物価指数（総務省）

消費者の食に関する3大志向は、「経済性志向」が年々増加し、令和7年（2025年）には3大志向の中で最も高くなっています。また、「簡便化志向」も増加傾向にあります。

図4 食に関する3大志向の推移（全国）

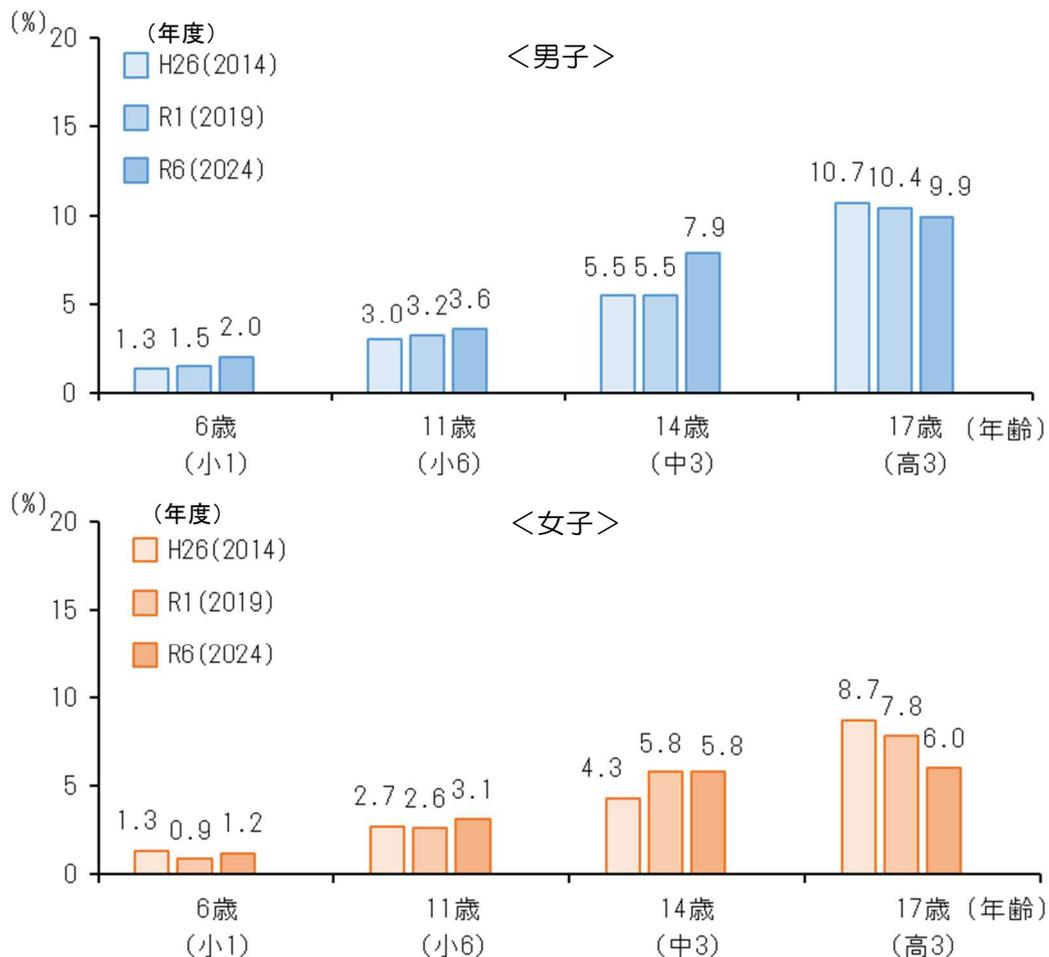


出典：消費者動向調査（日本政策金融公庫）

(2) 食生活の状況

家族との夕食について、「ほとんど子供だけ」で食事をする児童生徒の割合は、年齢が上がるにつれて増加しています。17歳（高校3年生）においては、10年前（平成26年度）と比べて低下しているものの、その他の年齢では横ばいもしくは増加傾向にあり、特に14歳（中学3年生）においてその傾向が顕著となっています。

図5 「ほとんど子供だけ」で夕食をとる児童生徒の割合（山梨県）

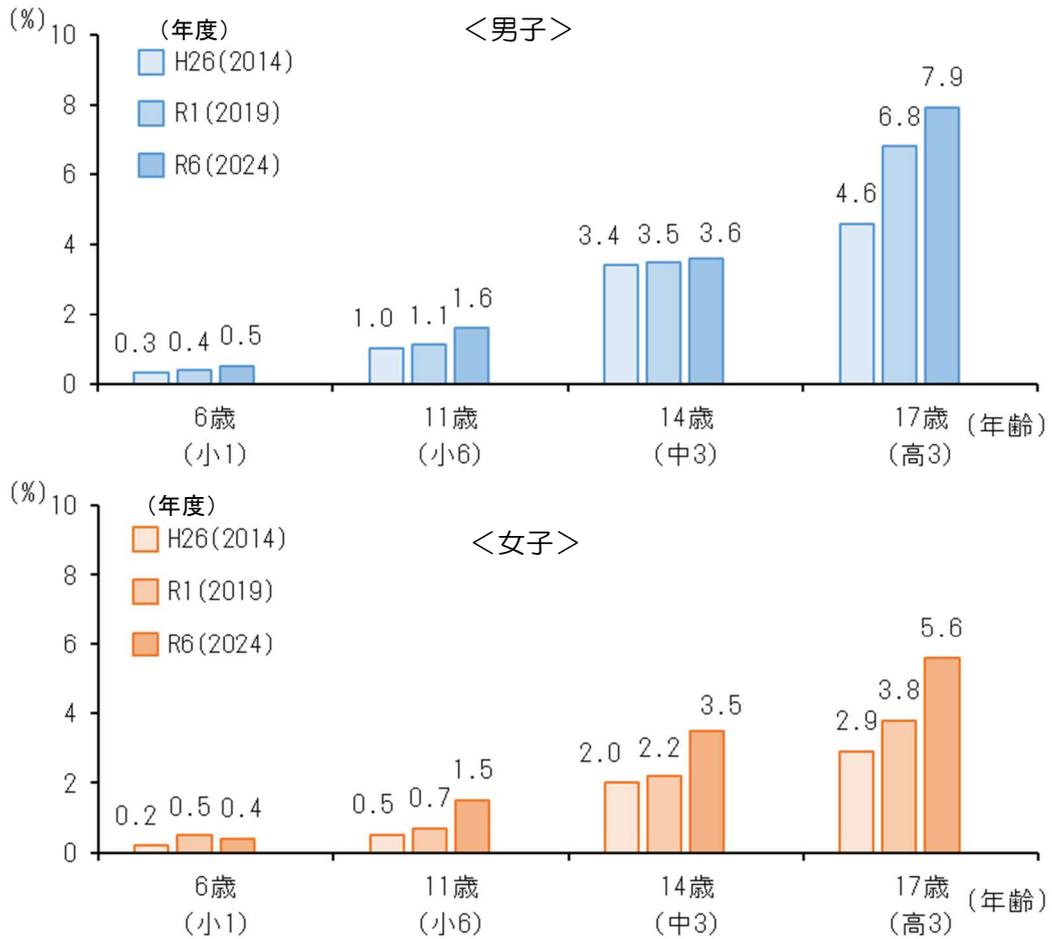


出典：山梨県新体カテスト・健康実態調査（山梨県）

朝食を「毎日食べない」子供の割合も、年齢が上がるにつれて増加しており、いずれの年齢においても10年前（平成26年度）に比べて悪化しています。とくに女子では増加幅が大きい傾向があります。

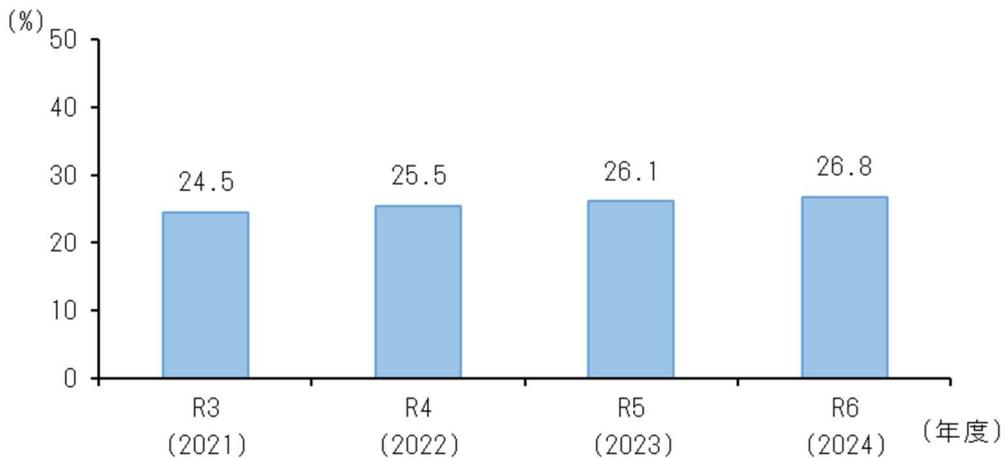
また、若者（20～39歳）においても、朝食を抜くことが週3日以上ある者の割合が令和6年度（2024年度）には26.8%となり、年々悪化しています。

図6 朝食を「毎日食べない」児童生徒の割合（山梨県）



出典：山梨県新体カテスト・健康実態調査（山梨県）

図7 朝食を抜くことが週3回以上ある若者（20～39歳）の割合（山梨県）

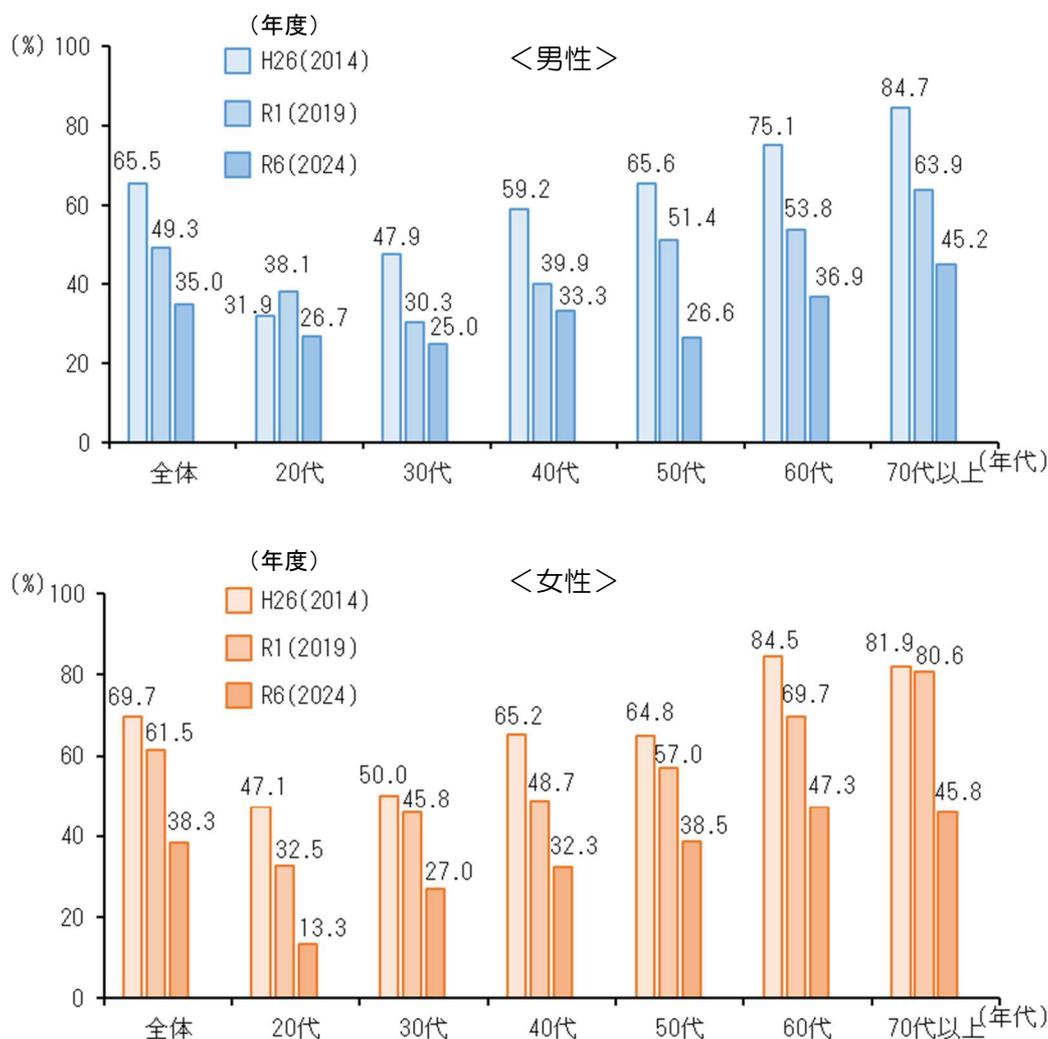


出典：県民生活支援課調べ（市町村国民健康保険健康診査）

主食・主菜・副菜をそろえて食べる人（1日2回以上、ほぼ毎日）の割合は、男女ともに20～30代の若者で低く、60代以上で高い傾向があります。

しかし、いずれの世代でも10年前（平成26年度）と比べて低下しており、とくに20代女性では13.3%と10年前の約3割まで減少し、すべての性別・年代の中で最も低い値となっています。

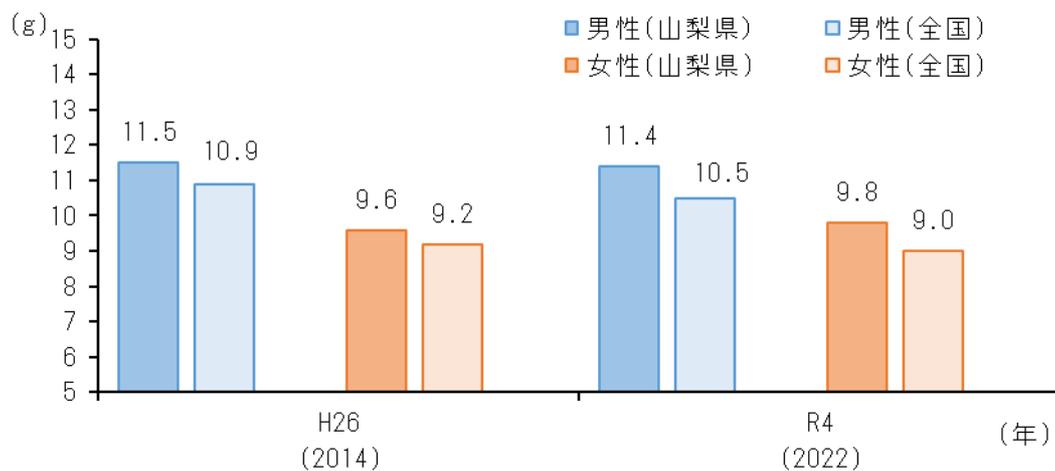
図8 主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の割合（全国）※1日2回以上・ほぼ毎日



出典：食育に関する意識調査（農林水産省）

成人 1 日あたりの食塩摂取量は、平成 26 年（2014 年）と令和 4 年（2022 年）を比較するとわずかに減少していますが、男女ともに依然として全国平均や食事摂取基準に示された目標量（男性 7.5g 未満、女性 6.5g 未満）を上回っています。

図9 食塩摂取量の状況（全国・山梨県）

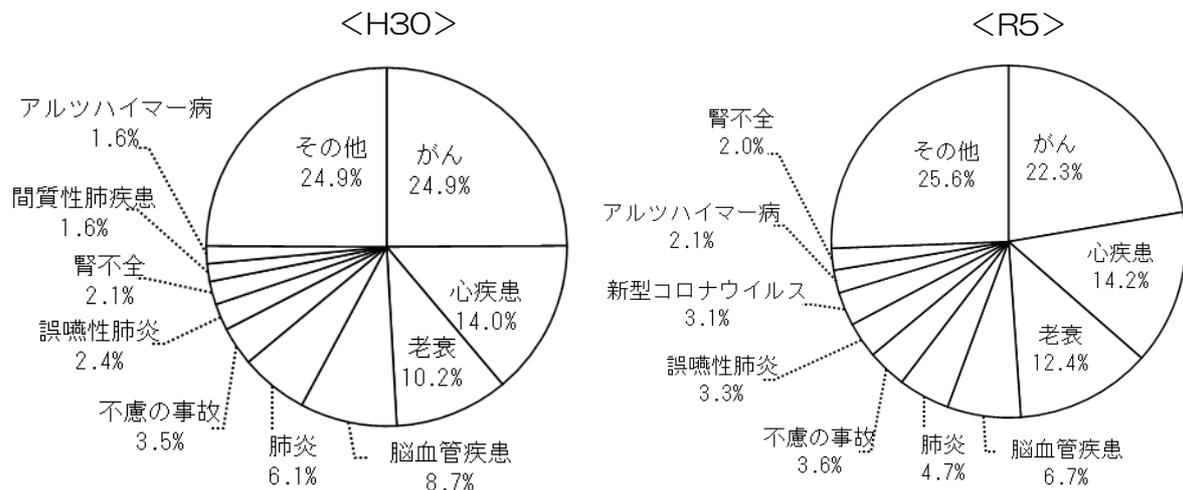


出典：国民健康・栄養調査（厚生労働省）、県民栄養調査（山梨県）

(3) 健康の状況

県民の死亡数に占める死因の割合において、がんや心疾患、脳血管疾患等の生活習慣病は、平成30年（2018年）に比べると減少しているものの、依然として全体の約半数を占めています。

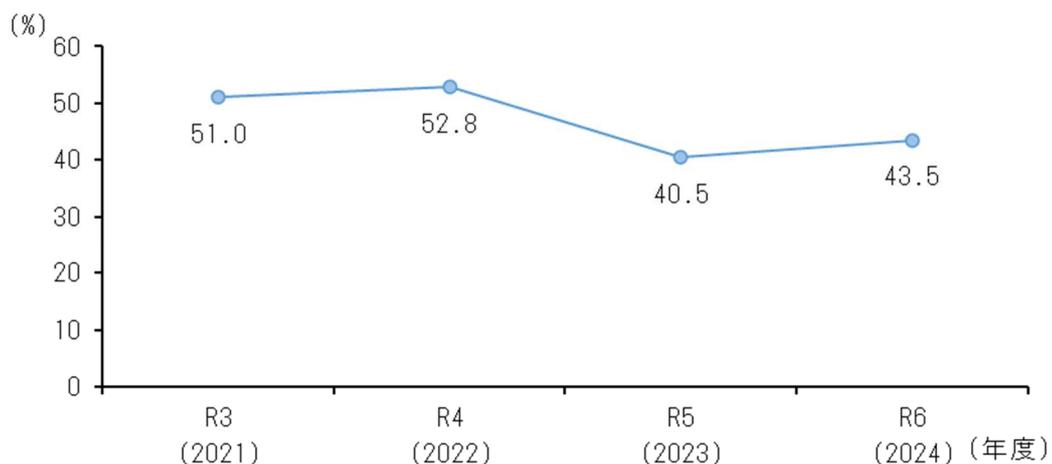
図 10 死因の割合（山梨県）



出典：人口動態統計（厚生労働省）

生活習慣病のリスクが高まる 40～59 歳において、運動や食生活等の生活習慣の改善に取り組んでいる人の割合は、令和6年度（2024年度）は 43.5%であり、令和3年度と比べて低下しています。

図 11 運動や食生活等の生活習慣の改善に取り組んでいる人（40～59歳）の割合（山梨県）



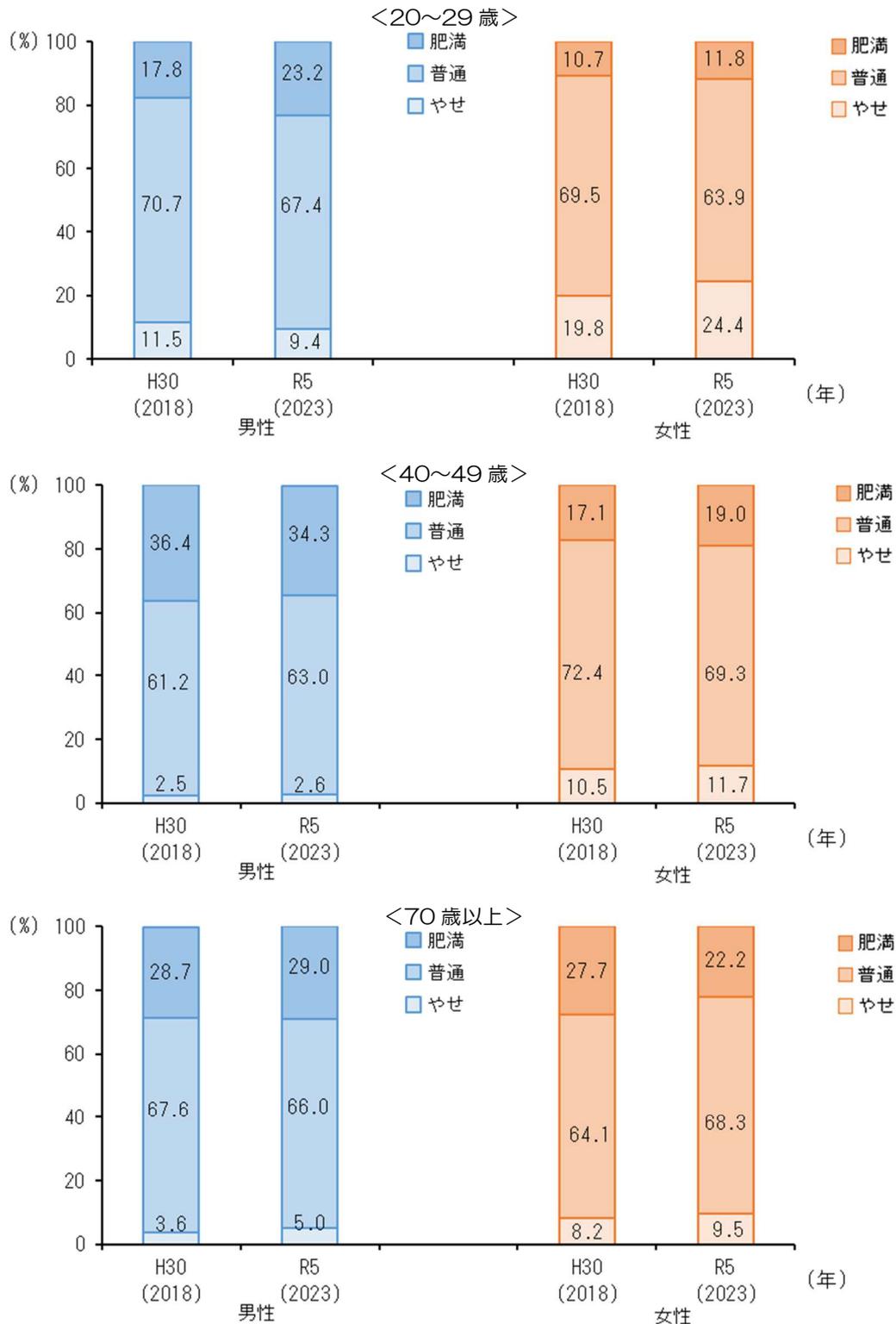
出典：県民生活支援課調べ（市町村国民健康保険健康診査）

BMI※による肥満の割合は、女性に比べて男性の方が高く、40～49 歳では 34.3%、70 歳以上では 29.0%となっています。※BMI (Body Mass Index) =体重(kg)÷身長(m)²

一方、やせ(低体重)の割合は、20～29 歳の女性で 24.4%となっており、平成 30 年(2018 年)と比べて増加しています。

図 1 2 BMI による肥満とやせ(低体重)の状況(全国)

BMI 判定基準 やせ:18.5 未満、普通:18.5 以上 25 未満、肥満:25 以上

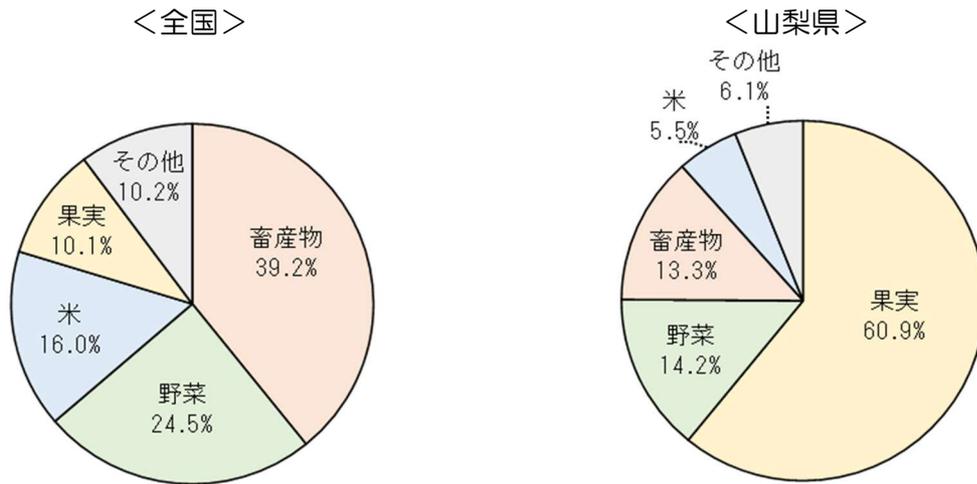


出典：国民健康・栄養調査（厚生労働省）

(4) 本県の農業の状況

本県の農業生産額に占める品目別割合は、果実が 60.9%と最も多く、日本一の収穫量を誇るぶどう、もも、すももをはじめ、おうとう、かき、りんご等、さまざまな品目が生産されています。続いて、野菜が 14.2%、畜産物が 13.3%となっており、地域の立地条件や特性を生かした特色ある産地が形成されています。

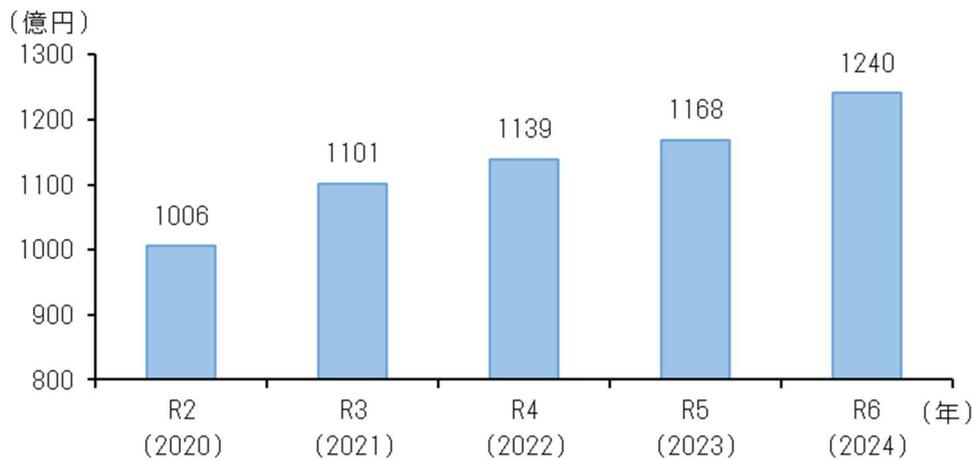
図 13 農業生産額に占める品目別割合（令和5年度、全国及び山梨県）



出典：生産農業所得統計（農林水産省）、農業及び水産業生産額実績（山梨県）

本県の農業生産額は、近年、主力品目である果実の価格上昇等により増加傾向にあり、令和6年には 1,240 億円となっています。

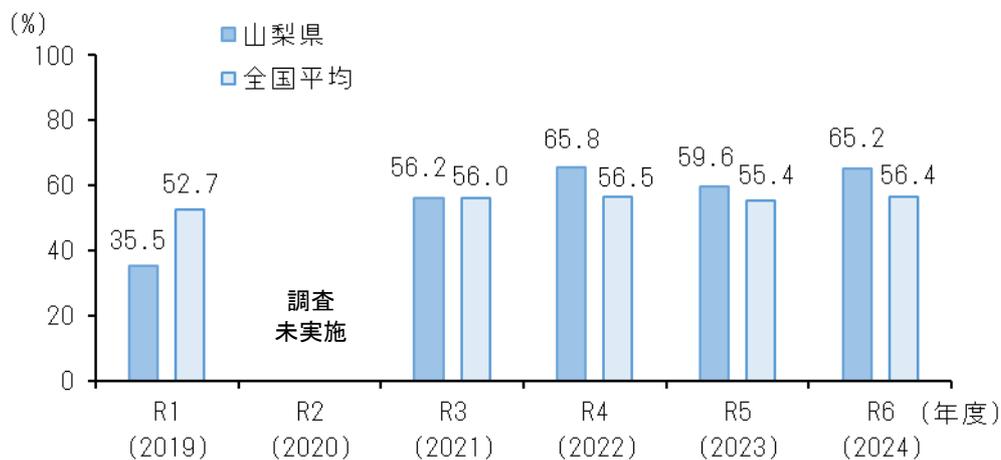
図 14 農業生産額の推移（山梨県）



出典：農業及び水産業生産額実績（山梨県）

本県で生産された農産物は、食育の「生きた教材」として、県内の学校給食にも活用されています。山梨県における使用割合（金額ベース）は、令和元年度（2019年度）では35.5%でしたが、令和6年度（2024年度）には65.2%まで上昇しています。

図15 学校給食における地場産物の使用割合（金額ベース）（全国・山梨県）



出典：学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査（文部科学省）

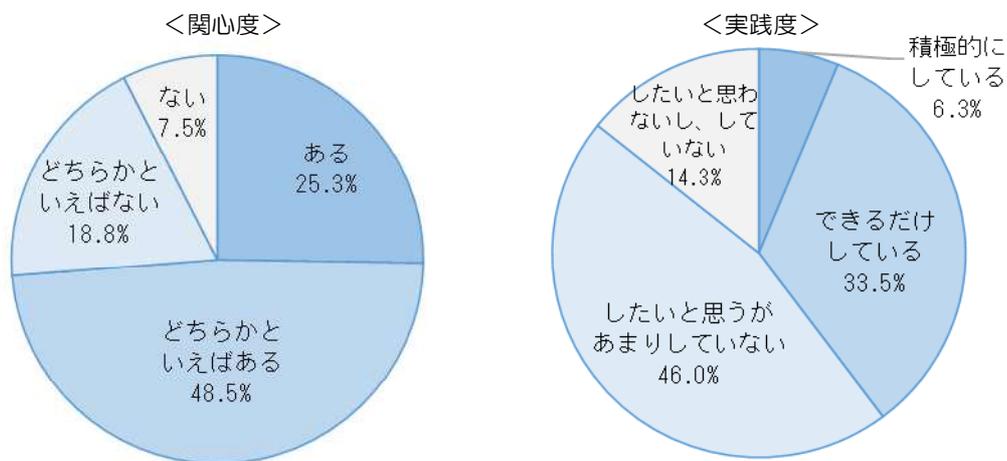
2 食に関する県民意識

※令和6（2024）年度県政モニターアンケート結果(回答者数400人)

（1）食育に関する意識

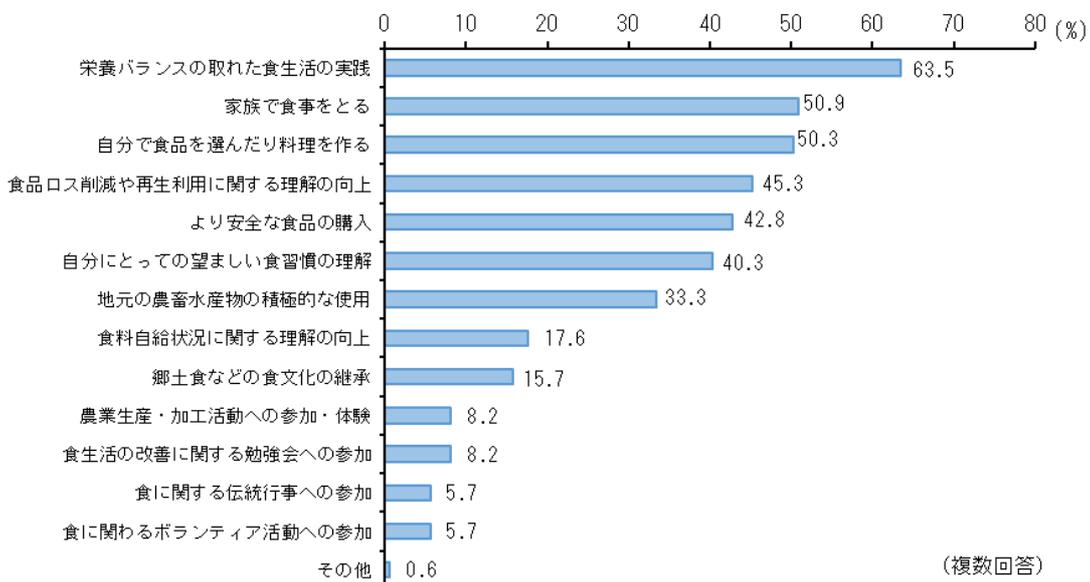
食育について、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人は73.8%であり、食育への関心は高い傾向にあります。一方、食育に関する活動については、「積極的にしている」「できるだけしている」と回答した人は39.8%であり、関心はあっても実際の行動につなげられていない人が一定数います。

図16 食育への関心度及び食育に関する活動の実践度

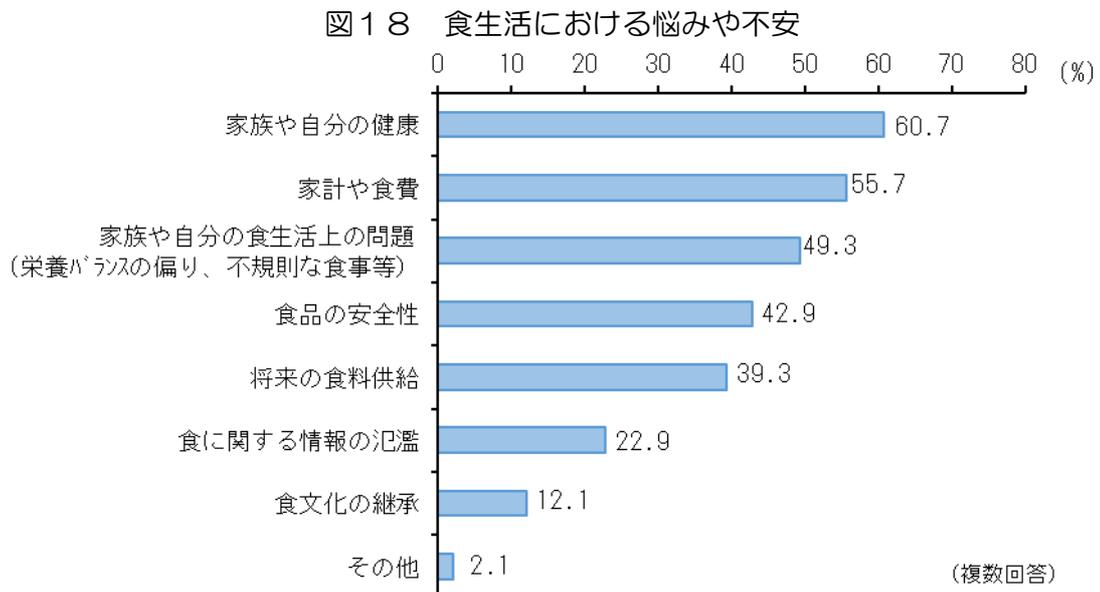


実践している食育活動は、日常的な食生活の中でできること（バランスの良い食事、家族との食事、調理等）が中心であり、郷土食等の食文化の継承や、食に関する勉強会、ボランティア活動への参加等、地域や社会との関わりを含む活動は少なくなっています。

図17 実践している食育活動の内容



日頃の食生活における悩みや不安の内容は、「家族や自分の健康」が 60.7%と最も高く、次いで「家計や食費」が 55.7%となっています。

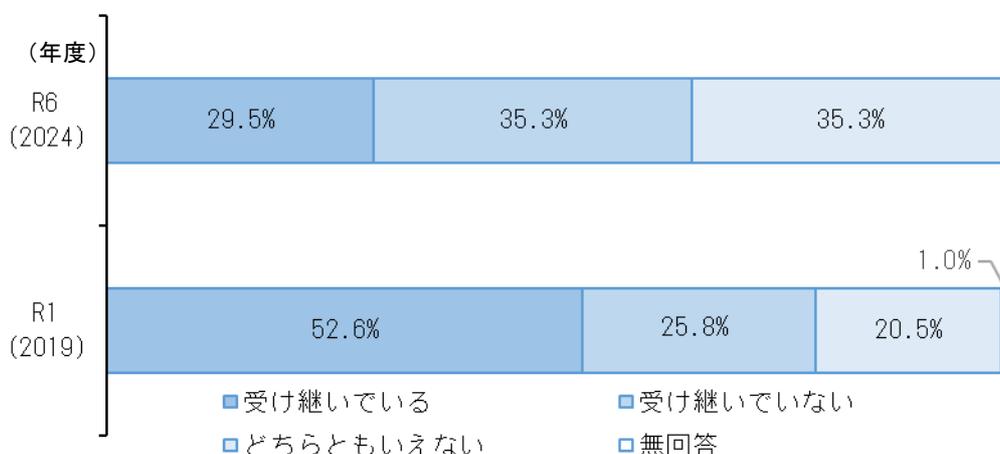


(2) 郷土食等の伝承

郷土食や伝統食等の地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸使い等の食べ方・作法(以下、「郷土食等」という)について、「受け継いでいる」と回答した人は 29.5%であり、「受け継いでいない」と回答した人(35.3%)を下回っています。

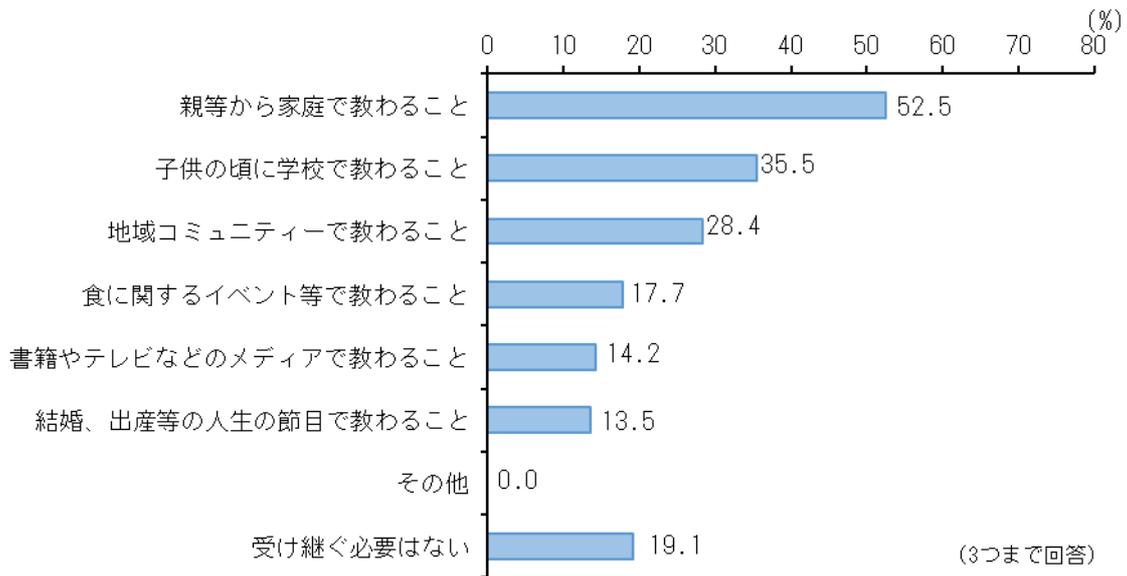
また、令和元年度(2019 年度)に実施した県政アンケート(回答者 307 人)の結果と比べると、「受け継いでいる」と回答した人は約半数(R1 年 52.6%→R6 年 29.5%)に減少しています。

図 19 郷土食等の伝承



郷土食等を伝えていくために必要なこととしては、「親等から家庭で教わること」が52.5%と最も高く、次いで「子供の頃に学校で教わること」が35.5%となっています。

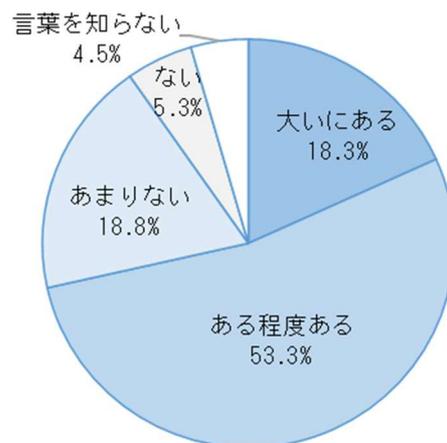
図20 郷土食等を伝えていくために必要なこと



(3) 農産物の地産地消

地産地消の取組への興味について、「大いにある」「ある程度ある」と回答した人は71.6%であり、関心は高い状況です。地産地消の魅力としては、「新鮮な農産物が手に入ること」や「地域農業の活性化につながる」が挙げられています。

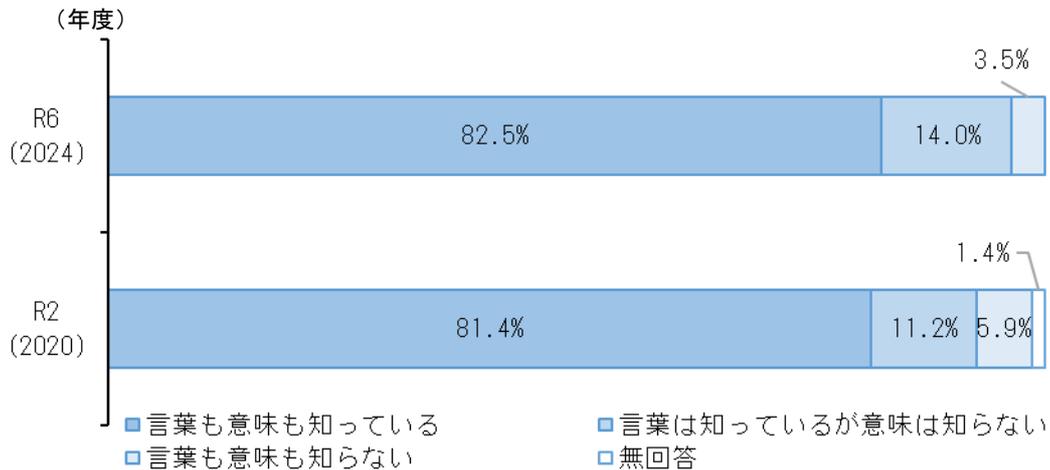
図21 地産地消への興味



(4) 食品ロス削減に関する意識・取組

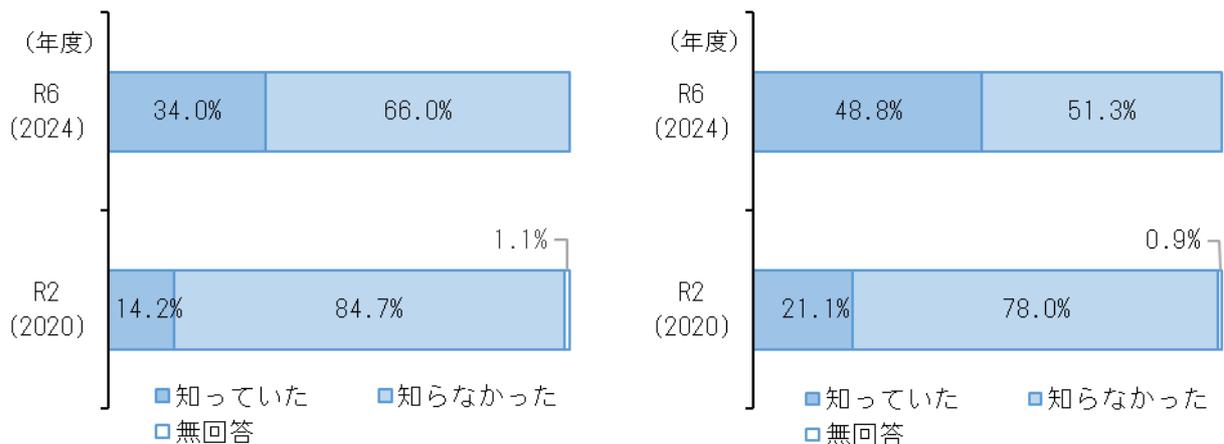
食品ロスについて、「言葉も意味も知っていた」と回答した人が82.5%で最も高く、令和2年度(2020年度)に実施した食品ロス削減に関する県民・事業者意識調査(回答者(県民)555人)(以下、「前回調査」という)の結果(81.4%)と比べても増加しており、認知度が高まっています。

図22 食品ロスの認知度



また、食品ロスの現状についても、「日本の食品ロスの量は国民一人あたり、毎日おにぎり1個分の食べ物を捨てている計算になること」を「知っていた」と回答した人は34.0%、「食品ロスの約半分は家庭から発生していること」を「知っていた」と回答した人は48.8%であり、前回調査の結果(前者:14.2%、後者:21.1%)と比べても大幅に増加しており、食品ロスの現状に関する認知度が高まっています。

図23 食品ロスの現状の認知度

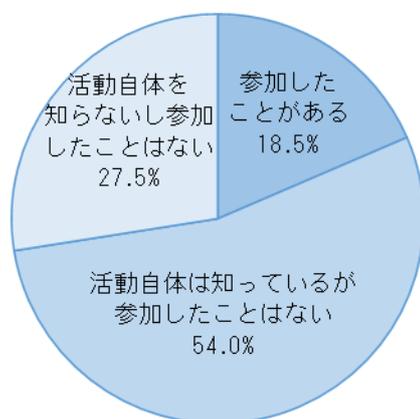


日本の「食品ロス」の量は、国民一人あたり、毎日おにぎり1個分(前回調査では「お茶碗1杯分」)の食べ物を捨てている計算になること

「食品ロス」の約半分は、家庭から発生していること

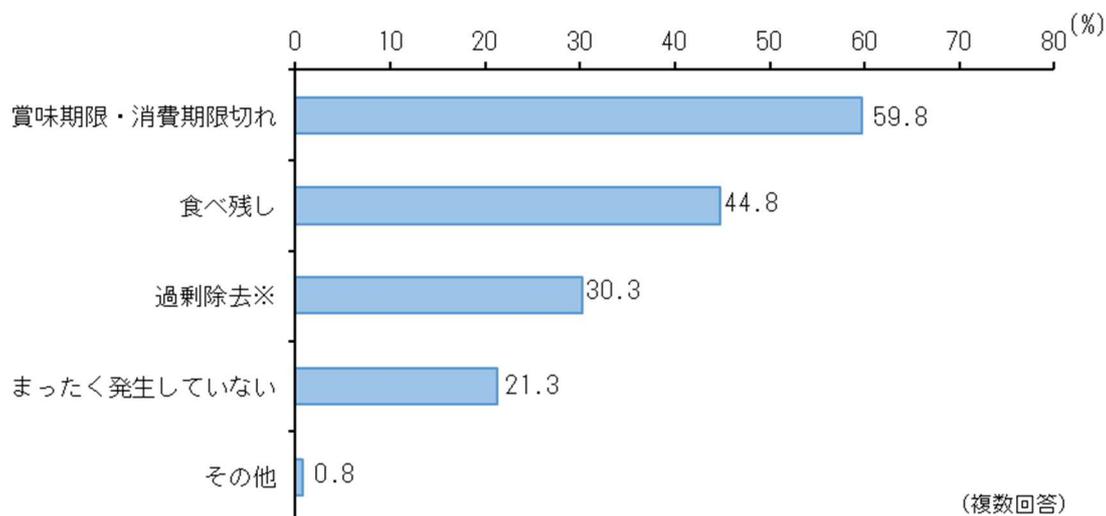
余った食品を有効活用する活動（フードバンクへの寄付、フードドライブ）について、「参加したことがある」と回答した人は18.5%であり、前回調査（7.1%）から大幅に増加しています。しかし、「参加したことがない」と回答した人は81.5%であり、前回調査（91.7%）から減少しているものの、依然として割合が高い状況です。

図24 フードバンク、フードドライブ活動への参加



家庭で発生する食品ロスの種類は、「賞味期限・消費期限切れ」が59.8%で最も高く、次いで「食べ残し」が44.8%となっています。一方で、「全く発生していない」という回答も21.3%あります。

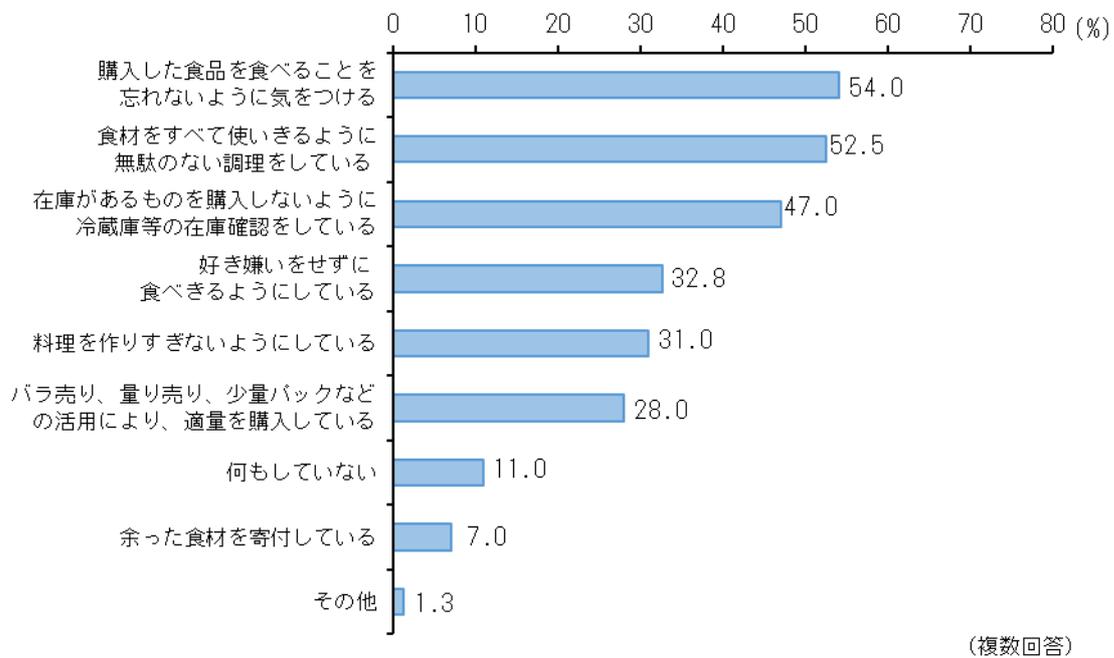
図25 家庭で発生する食品ロスの種類



※野菜の皮を厚くむき過ぎたり、脂身の部分を調理せず捨ててしまう等、食べられる部分を捨てること

家庭における食品ロスを減らすための取組について、「購入した食品を食べることを忘れないように気をつける」が54.0%、「食材をすべて使いきるように無駄のない調理をしている」が52.5%、「在庫があるものを購入しないように冷蔵庫等の在庫確認をしている」が47.0%となっています。

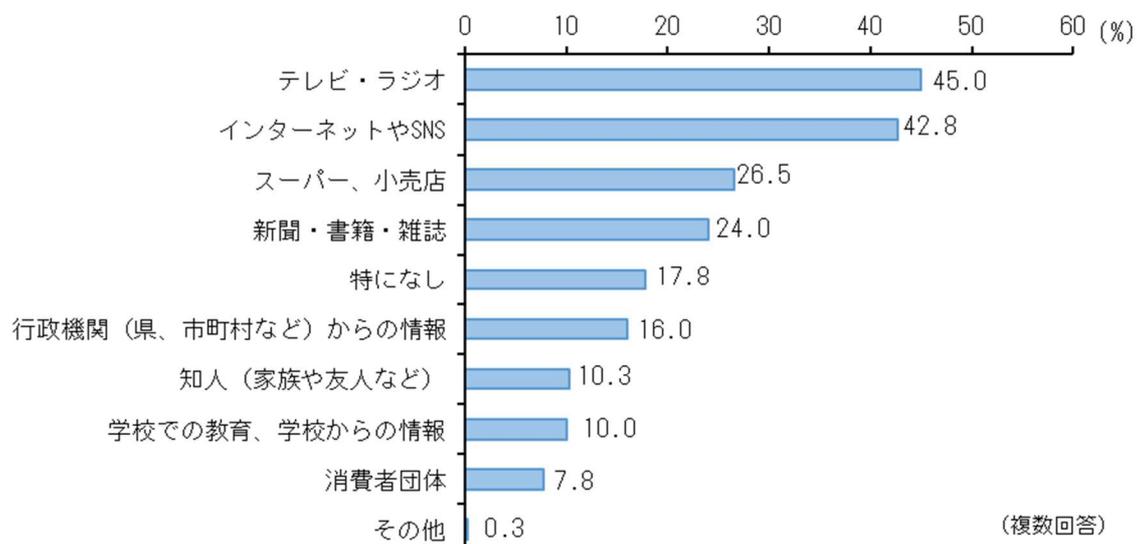
図26 食品ロスを減らすための取組



(5) 食に関する情報の入手

日頃、食品の安全性や栄養等の食生活、食品ロスに関する情報を得る手段について、「テレビ・ラジオ」が45.0%、「インターネットやSNS」が42.8%であり、特に割合が高くなっています。「スーパー、小売店」(26.5%)、「新聞・書籍・雑誌」(24.0%)等も一定の割合を占めており、情報入手の手段が多様化しています。

図27 食生活や食品ロスに関する情報を得る手段



3 「第4次やまなし食育推進計画」の達成状況

栄養教諭による地場産物を活用した食に関する指導回数、食育推進応援団や食品ロス削減推進応援団の登録件数（事業所）、食の伝承マイスター認証件数等の項目においては、一定の成果がみられました。しかし、中学2年生女子や若者（20歳～39歳）の朝食欠食、県民（20歳以上）の1日の食塩摂取量等、改善が見られていない項目もあり、依然として課題が残されています。

基本方針	No.	指標項目	策定時 (R1)	現状値 (R6)	目標値 (R7)	進捗 状況
1. あらゆる場面 での食育の推進	1	朝食を「食べない」「食べ ない日が多い」児童生徒の 割合	中2男子 4.8% 中2女子 3.9% (H30)	中2男子 4.6% 中2女子 5.2%	中2男子 4.6% 中2女子 3.5% (R5) 【R6改定後】 中2男子 3.7% 中2女子 4.5% (R10)	△
	2	朝食を抜くことが週3回以 上ある若者(20歳～39歳) の割合	24.5%	26.8%	15%以下	△
	3	栄養教諭による地場産物を 活用した食に関する指導回 数	月7.5回	月11.3回	月12回以上	○
	4	学校給食における地場産物 の使用割合（金額ベース）	35.5%	65.2%	52.7%以上 【R4改定後】 72.0%以上	○
	5	県民(20歳以上)の1日の食 塩摂取量	10.5g (H26)	10.6g (R4)	8.0g未満 (R4) 【R6改定後】 8.0g未満 (R17)	△
	6	運動や食生活等の生活習慣 の改善に取り組んでいる人 の割合(40歳～59歳)	48.8%	43.5%	60%以上	△
	7	食育推進応援団の登録件数 (事業所)	310件	334件	335件以上	○
2. 食による地域 の魅力発信	8	食の伝承マイスター認証件 数	7件	18件	20件以上	○
3. 食品ロス削減 の推進と体制づく り	9	食品ロス削減推進応援団の 登録件数（事業所）	-	444件	250件以上	◎
4. 食に関する情 報の提供	10	食の安全・安心ポータルサ イトへのアクセス数	6,494件	延べ 14,893件	延べ 33,400件 以上	△

進捗状況

◎目標達成済み、○順調に進捗している、△進捗が遅れている